

## お わ り に

本年度の校内研修は、平成27・28年度の文部科学省委託事業「道徳教育総合支援事業」を受けた初年度の研究でした。昨年度までの算数科に視点を当てた思考力・表現力の育成についての研究成果を継承しつつ、研究対象を道徳に視点をあて、学び合いや伝え合いを取り入れた授業づくりを通して、ともに考えを深められる児童の育成を目指したいと考え、研究をスタートしました。そこで、研究主題を「ともによりよく生きようとする児童の育成～自分の思いや考え方を伝え合う道徳の時間の工夫・改善を通して～」と設定して研究に取り組みました。

しかし、それぞれの教員がこれまでに道徳の授業実践は行っていたものの、道徳の授業はどのように行えばよりよい実践ができるようになるのか、改めて考えてみる必要に迫られました。校内の体制を強化し、研修主任を中心とした研修推進委員会を作り、その中に3つの研究部会と低中高学年ブロックを縦横に配置し、推進委員会、各部会、全体会等で研究を少しずつ進めてきました。また、学習指導要領の改訂の内容把握、道徳の教科化についての理解、実際に道徳の授業を展開するためのポイントなど、必要な情報を収集するため、先進校視察、講演会の受講などを繰り返し行いました。特に、文部科学省教科調査官の赤堀博行様には、早い段階から本校にいらしていただき、指導をしていただきました。その結果、少しずつ我々が取り組むべき方向性が見えてきました。そして各部会で、資料の収集、別葉の作成、実態調査、環境整備などをとおして、道徳教育活動を展開していくための下地作りを進めるとともに、各教員は、一人2授業公開という積極的な授業公開と研究会を学校全体の推進体制のもと実施してきました。

このような実践を積み重ねることを通して、学校全体の雰囲気落ち着き、児童も教員も前向きになってきた事を感じます。道徳の別葉を作ることにより、教員が道徳の関連項目を教育活動全体の中で常に意識した動きをすることにより、子どもたち一人一人も道徳の時間で学んだことを意識して自分をよりよくしようとする行動できるようになりつつあります。また、全員で授業づくりに関わり、互いに授業を参観し合い、授業について良さや課題を述べ合うことを通して、他の教師の授業づくりや指導技術から、様々なものを共有することができたことも大きな成果だと思います。今年度の研修を通して全教職員がひとつになれたという気がします。

本年度の校内研修を進める中で、二つの課題が見えてきました。一つ目は、子どもたちが学習した内容を自分ごととして考えられるよう、自ら考え振り返る場を工夫したり、予想される児童の反応と発問を結び付け、補足発問を準備したりしておく必要があると言うことです。また二つ目は、思いや考えたことを伝え合える話し合いの活動内容や視点を工夫したり、場の位置付けを考えたりしながら授業を構想をする必要があるということです。

以上のような、研修の成果と課題を踏まえて、ともによりよく生きる児童が育つことを願い、次年度の研修につなげていきたいと思ひます。

伊勢崎市立名和小学校 教頭 石川 一彦

### 研究に携わった職員

校長	松嶋いづみ	4年1組	村杉 彩	事務主事	石原亜佑美
教頭	石川 一彦	4年2組	内田 敬久	労務技師	後藤 弘和
教務主任	飯野 幸一	5年1組	吉田 啓祐	初任研代替非常勤講師	内田 麻紀
1年1組	新井 陽子	5年2組	石原 剛	スクールカウンセラー	飯島 博之
1年2組	土屋かおり	5年3組	大小原千尋	外国籍適応助手	金城あんな
1年3組	塚越とも子	6年1組	松本 啓志	A L T	エトナキガンテ
2年1組	谷川ゆかり	6年2組	阪本 和英	マイタウン英語支援	渡辺 作子
2年2組	村川美和子	あおぞら	宮田 徳子	図書館事務職員	貝塚 幸子
2年3組	齋藤磨里奈	なかよし	牛込久美子	学習生活相談員	内田 好男
3年1組	曾根 恵子	算数専科	高橋 純子	臨時介助員	福島 有香
3年2組	石原 顕子	音楽専科	馬場 恵津子	ICTサポーター	小田 橋佐枝
3年3組	川島 志保	養護教諭	富澤 友紀		